

# 今こそ、備えを万全に

令和6年1月1日に発生した「能登半島地震」から1年が経過します。能登地方は、9月21日に線状降水帯による猛烈な雨が降り、復興途上にあつた被災地が再び甚大な被害に見舞われました。自然の猛威による災害は、どこでも起こり得るものであり、春日市も例外ではありません。命を守るために、今、できる備えを行いましょ。



▲能登半島地震の被災地(令和6年2月 被災地支援のため現地に派遣された市職員が撮影)

## 「災害は起こる」と想定を

これまで、市内でも豪雨による道路冠水などが発生しています。また、平成17年の福岡県西方沖地震では市内で震度5強を記録しました。地震は予測が困難です。市内には警固断層という活断層帯があり、国は地震発生確率を最高ランクの「Sランク・高い」に位置付けています。具体的には、「マグニチュード7・2程度の地震が30年以内に0・3〜6%の確率で発生する可能性がある」と指摘されています。なお、平成28年の熊本地震は、「30年以内に発生する確率が0・0・9%」とされていた中で発生しています。災害の発生を食い止めることはできません。私たちにできることは、日頃から災害に備え、被害を減らす「減災」です。

## 避難行動を確認する

自宅周辺の状況に応じ、どこに避難するか、どんな経路で行くかなど、災害時の避難行動を家族で事前に話し合っておくことが重要です。避難先は市が開設する避難所だけではなくありません。安全な親戚や知人宅、ホテルなども避難先の選択肢の一つです。状況によっては、自宅にとどまる「在宅避難」が適切な場合もあります。また、災害発生時に家族が一緒にいる

**被災地支援の経験から**



令和6年2〜3月に、能登半島地震で大きな被害のあつた石川県穴水町に派遣され、家屋調査業務の支援を行いました。

地震発生から2カ月近く経過していましたが、道路は至る所でひび割れがあり、多くの木造住宅が崩壊したままの状態でした。住民の皆さんは、「まさかこんなに大きな地震が起きるとは思っていなかった」と大きなショックを受けていました。

能登地方はまだ復興の途上であり、今後も私たち一人一人が、できる範囲で支援を続けていく必要があります。

現地では被害の大きさを目の当たりにし、あらためて、自然災害の恐ろしさを感じました。

春日市でも、いつこのような地震が起こるか分かりません。備蓄や住宅の耐震化、避難場所の確認など、普段からの備えが何よりも重要です。ぜひ、家庭でできる防災対策に取り組んでください。

安全安心課危機管理担当  
みただら 三田寺主任

## 備えを万全に

とは限りません。お互いの安否を確認できるよう、災害時の連絡先や連絡手段(災害用伝言ダイヤルの活用など)、集合場所などを決めておきましょう。

市ウェブサイト(☎1001399)で、防災ガイドブックを公開しています。備蓄品や非常時持出品のチェックリスト、災害発生時の行動パターン、避難する時のポイントなどを詳しく紹介しています。

▲防災ガイドブック

## 自分の身は自分で守る

災害の規模によっては、市などの公的機関も被災したり、交通網が乱れたりすることで、すぐに支援ができないこともあります。まずは、自分の身は自分で守るという意識を持ち、食料の備蓄や非常時持出品の準備をしておきましょう。

### 備蓄品の例

電気や水道などライフラインが止まった場合に備え、家族が3〜7日程度は生活できるだけの備えをしましょう。

- 食料品(主食、お菓子など)**  
※災害時は栄養が偏りがちになるため、ビタミン剤などの備蓄も推奨されています。
- 飲料水(1人1日3リットル目安)**
- 生活用水(手を洗う、トイレを流すなど)**  
※ポリタンクに水道水をためておく、お風呂に常に水を入れておくなどして備えましょう。
- 非常用トイレ(1人35回分(7日分)目安)**
- 電力や明かりを確保するもの**  
(非常用バッテリー、ランタン、懐中電灯など)
- 生活用品**  
(カセットこんろ、使い捨ての食器、ラップなど)
- 衛生用品や救急用品**  
(トイレトイレットペーパー、オムツ、生理用品、液体はみがき、薬など)
- 現金**(ATMや電子決済が使用できない場合があるため)

## ローリングストック法

食料、水、生活用品などを少し多めに買って置き、使った分だけ買い足していく方法です。食料などを一定量に保ちながら、消費と購入を繰り返すことで、備蓄品の鮮度を保ち、いざという時にも日常に近い食生活を送ることができます。

